

行政視察等報告書

令和8年2月17日

米子市議会議長様

(会派の場合)

会派名 自由創政

代表者氏名 戸田 隆次

提出者氏名 田村 謙介

(議員の場合)

議員名



下記のとおり報告します。

記

項目	<input type="checkbox"/> 現地調査	<input checked="" type="checkbox"/> 行政視察	<input type="checkbox"/> 要請・陳情活動
	<input type="checkbox"/> 研修会への参加	<input type="checkbox"/> 会議への参加	
参加者	戸田 隆次、田村 謙介		
期日	令和8年2月9日から 令和8年2月10日まで		
〔視察等年月日・場所・内容〕			
2月9日(月) 移動日			
2月10日(火) 午前10時～午前11時30分			
京都府綾部市 「移住立国あやべ」について			
〔視察の目的〕〔視察の要旨〕			
〔本市事業の参考となる点〕は別紙のとおり			
経費	旅費	93,620円	
	土産代	2,700円	
	タクシー代	1,200円	
	合計	97,520円	

#### 【視察等年月日・場所・内容】

- ・視察年月日：令和8年2月10日（火）午前10時から午前11時30分まで
- ・視察場所：綾部市  
（担当：定住交流部次長 潮見様、定住地域政策課定住促進担当 後藤様）
- ・視察内容：「移住立国あやべ」について

#### 【視察目的】

「今後30年間で人口4万人」という目標を掲げ、市を挙げて取り組む先進的な移住・定住促進施策のノウハウを学ぶため。

#### 【視察概要】

##### ①綾部市の人口動態と課題

綾部市は昭和25年の市制施行時に54,000人の人口を有していたが、令和7年3月末現在で住民基本台帳人口30,851人、推定人口29,814人まで減少している。令和6年度の人口動態はマイナス402人で、自然動態（出生・死亡）がマイナス438人、社会動態（転入・転出）がプラス36人となっている。例年400～500人程度の人口減少が続いており、自然動態の改善が困難な中、社会動態の改善に重点を置いた定住促進施策を展開している。

##### ②移住定住施策書記の取り組み（平成12年～）

平成12年に廃校となった小学校校舎を活用して「里山ネット綾部」を開設し、都市住民との交流拠点として運営を開始。これが定住施策の出発点となった。平成18年には「綾部市水源の里条例」を制定し、限界集落を「水源の里」と名付けて交流から定住による地域振興を目指す方針を確立した。

##### ③組織体制の整備

平成20年度に企画部内に「定住サポート総合窓口」を設置し、空き家バンクと定住希望者相談を開始。平成22年度には定住促進課を新設し、平成23年度には定住交流部を設置して組織体制を強化した。平成26年4月には「綾部市住みたくなる町定住促進条例」を施行し、市民・事業者・行政が一体となった取り組みの理念を明文化した。

##### ④定住サポート総合窓口の活動内容について

###### 1. 空き家バンク事業

市内の空き家情報を積極的に公開し、移住希望者への住まい情報を提供。自治会加入を必須条件とし、契約前に自治会長との顔合わせを実施。入居時には職員が同行してご近所への挨拶回りを行い、地域への円滑な溶け込みを支援している。

###### 2. 空き家流動化促進施策

空き家流動化報奨金制度：空き家バンク登録物件とのマッチング成立後、所有者に10万円を支給。

空き家実態調査：自治会を通じて4段階評価で空き家状況を把握（令和4年調査では1,145戸の空き家を確認、うち使用可能932戸）

空き家管理事業者紹介制度：管理業者情報を市公式ホームページで公開。

### 3、定住支援住宅整備

市が空き家所有者から10年間無償借用し、水洗化等の改修を実施後、60歳未満世帯に3年間限定で貸与。現在3棟を運営中で、今後5棟体制を目指している。

### 4、移住立国プロジェクトの推進：情報発信の強化

平成30年から移住者ボランティア組織「ここら辺のことを伝えたい」と連携し、「移住立国綾部」ホームページを開設。地域紹介動画、移住者紹介動画、空き家対策啓発動画を配信し、InstagramとFacebookでの広告配信も実施している。

### 5、Uターン促進施策：京都サテライト拠点

京都市中京区に「綾部定住サポート京都サテライト店」を設置し、月1回の出張相談、田舎生活実践塾セミナー、特産品展示販売を実施している。

#### ⑤定住実績について

平成20年度の窓口設置以来、413世帯938人が定住。移住立国プロジェクト開始の平成30年以降は177世帯373人、令和7年度は2月10日現在で28世帯65人の実績を上げている。移住元は近畿圏内が多く、特に京都府内・京都市からが中心で、近年は海外からの問い合わせも増加しているとのこと。

#### 【視察（説明）要旨に対する議員の考え及び本み市の事務事業に参考となる点】

今回の視察で特に参考となったのが、空き家バンク利用者に自治会加入を必須条件としている点で、担当職員が自治会長をはじめとする地元へのあいさつ回りに同行し、橋渡しをすることにより、地域住民の協力が得やすくなり、移住者の地域定着率向上につながっているとのことであった。また正職員4人、会計年度職員1人の計5人体制で、物件登録から契約、入居後の挨拶回りまで一貫して手厚いサポートを実施しておられたのが印象的であった。

コロナ禍による都会から田舎への移住ブームが落ち着きを見せる中、本市にあっても綾部市のような新たな取り組みの検討が必要だと感じた。また財政的制約から高額な移住支援金競争には参加せず、人的サポートの充実で他市との差別化を図る綾部市の基本方針は、本市にとっても大いに参考になると感じた有意義な視察研修となった。



旅費計算表

令和8年2月9日 ~ 令和8年2月10日 (1泊2日)

京都府綾部市  
自由創政 会派視察及び研修

月 日	区間	鉄道路線名	区間キロ数	目的地までのキロ数	運賃	グリーン	急行料金		宿泊手当 (朝食付の額)	宿 泊 費	
							特 別	新 幹 線		京都府	
2/9	米 子 ~ 岡 山	JR	159.1		7,480		2,530		1,600	27,000	
(日)	岡 山 ~ 京 都	JR	219.3					4,160		10,990	
2/10	京 都 ~ 綾 部	JR	76.2		7,480		1,530				
(火)	(視 察)										
	綾 部 ~ 京 都	JR	76.2					1,530			
	京 都 ~ 岡 山	JR	219.3						3,730		
	岡 山 ~ 米 子	JR	159.1				2,530				
計	議 員 旅 費		43,560		14,960	0	8,120	7,890	1,600	10,990	0
	随 行 旅 費		0								

出 席 議 員 戸田議員、田村議員

議員旅費	43,560 × 2名 =	87,120 円
土産代	2,700	2,700 円
綾部市視察資料代	1,000 × 2人 =	2,000 円
JR払戻手数料(岩崎議員分)	2,260	2,260 円
研修受講費振込手数料(11/17)	440	440 円 (のちにキャンセル)
ホテルキャンセルに伴う手数料	550	550 円
駐車場代(田村議員)	1,000	1,000 円
タクシー代	1,200	1,200 円
自宅~駐車場(米子市役所)までのガソリン代(田村議員)	5km × 25円 × 2 =	250 円
計		97,520 円